

第 8 章 事後調査の実施に関する事項

第8章 事後調査の実施に関する事項

8.1 事後調査の考え方

事後調査とは、環境影響が予測されるとして調査・予測・評価を行った環境影響評価項目に対して、予測・評価の不確実性を補い、環境の保全のための措置の適正な履行状況等を確認することを目的とし、対象事業実施区域及びその周辺の環境調査、工事または施設の状況調査等を実施するものです。

事後調査は、環境影響評価において、環境に及ぼす影響が比較的大きいと想定された環境影響評価項目、並びに予測・評価項目、環境保全措置において、不確実性が大きいと考える環境影響評価項目等を対象として行います。

8.2 事後調査項目の選定

事後調査項目として選定した理由及び選定しない理由は、表 8.1 (1) ～ (3) 及び表 8.2 (1) ～ (2) に示すとおりです。

表 8.1 (1) 事後調査項目を選定した理由・選定しない理由（工事中）

環境影響評価項目		環境影響要因	選定	選定した理由・選定しない理由
評価項目	細目			
温室効果ガス	温室効果ガス	建設機械の稼働	×	採用した予測方法は、予測精度に係る知見が十分に蓄積されていると判断でき予測の不確実性はないことから、事後調査項目として選定しません。
		工事用車両の走行	×	
生物多様性	動物	建設行為等	○	建設工事等により、動物の生息、植物の生育及び生態系に影響を及ぼす可能性があり、環境の保全のための措置として挙げた項目について、環境保全の効果に不確実性があるため、事後調査項目として選定します。
	植物	建設行為等	○	
	生態系	建設行為等	○	
水循環	地下水位及び湧水の流量	建設行為等	×	建設行為等による地下水位及び湧水の流量への影響は小さいと予測され、採用した予測方法及び環境の保全のための措置は、予測精度に係る知見が十分に蓄積されていると判断でき予測の不確実性は低いことから、事後調査項目として選定しません。
	河川の形態、流量	建設行為等	×	建設行為等による河川の形態、流量への影響は小さいと予測され、採用した予測方法及び環境の保全のための措置は、予測精度に係る知見が十分に蓄積されていると判断でき予測の不確実性は低いことから、事後調査項目として選定しません。
廃棄物・建設発生土	産業廃棄物	建設行為等	×	採用した予測方法は、予測精度に係る知見が十分に蓄積されていると判断でき予測の不確実性はないことから、事後調査項目として選定しません。
	建設発生土	建設行為等	×	
大気質	大気汚染	建設行為等	×	既存の建築物等の解体にあたっては、大気汚染防止等の関係法令に基づき、適正に処理する計画のため、事後調査項目として選定しません。
		建設機械の稼働	×	建設機械の稼働に伴う一般大気環境への影響は小さいと考えられることから、事後調査項目として選定しません。
		工事用車両の走行	×	工事用車両の走行に伴う沿道大気環境への影響は小さいと考えられることから、事後調査項目として選定しません。

表 8.1 (2) 事後調査項目を選定した理由・選定しない理由（工事中）

環境影響評価項目		環境影響要因	選定	選定した理由・選定しない理由
評価項目	細目			
水質・底質	公共用水域の水質	建設行為等	×	建設行為等による公共用水域の水質への影響は小さいと予測され、採用した予測方法及び環境保全のための措置は、予測精度に係る知見が十分に蓄積されていると判断でき予測の不確実性は低いことから、事後調査項目として選定しません。
	公共用水域の底質	建設行為等	×	建設行為等による公共用水域の底質への影響は小さいと予測され、採用した予測方法及び環境保全のための措置は、採用した予測方法は、予測精度に係る知見が十分に蓄積されていると判断でき予測の不確実性は低いことから、事後調査項目として選定しません。
	地下水の水質	建設行為等	×	建設行為等による地下水の水質への影響は小さいと予測され、採用した予測方法及び環境保全のための措置は、採用した予測方法は、予測精度に係る知見が十分に蓄積されていると判断でき予測の不確実性は低いことから、事後調査項目として選定しません。
土壌	土壌汚染	建設行為等	×	廃棄物層上部は適切な覆土厚を確保するほか、土壌汚染対策法に基いて適切に処理する計画であるため、事後調査項目として選定しません。
騒音	騒音	建設機械の稼働	×	採用した予測方法は、予測精度に係る知見が十分に蓄積されていると判断でき、予測の不確実性はないことから、事後調査項目として選定しません。
		工事用車両の走行	×	工事用車両の走行に伴う騒音の影響は小さいと考えられることから、事後調査項目として選定しません。
振動	振動	建設機械の稼働	×	採用した予測方法は、予測精度に係る知見が十分に蓄積されていると判断でき、予測の不確実性はないことから、事後調査項目として選定しません。
		工事用車両の走行	×	工事用車両の走行に伴う振動の影響は小さいと考えられることから、事後調査項目として選定しません。
地盤	地盤沈下	建設行為等	×	建設行為等による地盤沈下への影響は小さいと予測され、採用した予測方法及び環境保全のための措置は、予測精度に係る知見が十分に蓄積されていると判断でき予測の不確実性は低いことから、事後調査項目として選定しません。
悪臭	悪臭	建設行為等	×	廃棄物層上部は適切な覆土厚を確保する計画のため、事後調査項目として選定しません。

表 8.1 (3) 事後調査項目を選定した理由・選定しない理由（工事中）

環境影響評価項目		環境影響要因	選定	選定した理由・選定しない理由
評価項目	細目			
安全	火災・爆発	建設行為等	×	廃棄物層上部は適切な覆土厚を確保する計画のため、事後調査項目として選定しません。
	有害物漏洩	建設行為等	×	水質・底質と同様の予測方法であり、予測精度に係る知見が十分に蓄積されていると判断でき予測の不確実性は低いことから、事後調査項目として選定しません。
地域社会	交通混雑	工事用車両の走行	○	工事用車両の走行により、交通交雑に影響を及ぼす可能性があり、環境の保全のための措置として挙げた項目については、環境保全の効果に不確実性があるため、事後調査項目として選定します。
	歩行者の安全	工事用車両の走行	×	対象事業実施区域周辺の工事用車両の主な走行ルートは、ガードレールにより歩車が分離されており、工事用車両出入口付近に誘導員を配置する等の対応を図ることで歩行者の安全を確保するため、選定しません。
触れ合い活動の場	触れ合い活動の場	工事用車両の走行	×	工事用車両の走行による触れ合い活動の場への影響は小さいと予測され、採用した予測方法及び環境保全のための措置は、予測精度に係る知見が十分に蓄積されていると判断でき予測の不確実性は低いことから、事後調査項目として選定しません。

表 8.2 (1) 事後調査項目を選定した理由・選定しない理由（供用時）

環境影響評価項目		環境影響要因	選定	選定した理由・選定しない理由
評価項目	細目			
生物多様性	動物	施設の存在・土地利用の変化	○	施設の存在・土地利用の変化により、動物の生息及び生態系に影響を及ぼす可能性があり、環境の保全のための措置として挙げた項目について、環境保全の効果に不確実性があるため、事後調査項目として選定します。
	植物	施設の存在・土地利用の変化	×	
	生態系	施設の存在・土地利用の変化	○	
水循環	地下水位及び湧水の流量	施設の存在・土地利用の変化	○	採用した環境の保全のための措置として、モニタリングによる河川の流量、湧水の流量監視を行うため、事後調査項目として選定します。
	河川の形態、流量	施設の存在・土地利用の変化	○	
廃棄物・建設発生土	一般廃棄物	施設の運営	×	採用した予測方法は、予測精度に係る知見が十分に蓄積されていると判断でき予測の不確実性はないことから、事後調査項目として選定しません。
	産業廃棄物	施設の運営	×	
大気質	大気汚染	来園車両等の走行	×	来園車両等の走行に伴う一般大気環境への影響は小さいと考えられることから、事後調査項目として選定しません。
水質・底質	公共用水域の水質	施設の存在・土地利用の変化	×	施設の存在・土地利用の変化による公共用水域の水質への影響は小さいと予測され、採用した予測方法及び環境保全のための措置は、予測精度に係る知見が十分に蓄積されていると判断でき予測の不確実性は低いことから、事後調査項目として選定しません。
	地下水の水質	施設の存在・土地利用の変化	×	施設の存在・土地利用の変化による地下水の水質への影響は小さいと予測され、採用した予測方法及び環境保全のための措置は、予測精度に係る知見が十分に蓄積されていると判断でき予測の不確実性は低いことから、事後調査項目として選定しません。
騒音	騒音	来園車両等の走行	×	来園車両の走行に伴う騒音の影響は小さいと考えられることから、事後調査項目として選定しません。

表 8.2 (2) 事後調査項目を選定した理由・選定しない理由（供用時）

環境影響評価項目		環境影響要因	選定	選定した理由・選定しない理由
評価項目	細目			
振動	振動	来園車両等の走行	×	来園車両の走行に伴う振動の影響は小さいと考えられることから、事後調査項目として選定しません。
地盤	地盤沈下	施設の存在・土地利用の変化	×	施設の存在・土地利用の変化による地下水の水質への影響は小さいと予測され、採用した予測方法及び環境保全のための措置は、予測精度に係る知見が十分に蓄積されていると判断でき予測の不確実性は低いことから、事後調査項目として選定しません。
悪臭	悪臭	施設の存在・土地利用の変化	×	廃棄物層上部は適切な覆土厚を確保する計画のため、事後調査項目として選定しません。
安全	火災・爆発	施設の存在・土地利用の変化	×	廃棄物層上部は適切な覆土厚を確保する計画のため、事後調査項目として選定しません。
	有害物漏洩	施設の存在・土地利用の変化	×	水質・底質と同様の予測方法であり、予測精度に係る知見が十分に蓄積されていると判断でき予測の不確実性は低いことから、事後調査項目として選定しません。
地域社会	交通混雑	来園車両等の走行	○	環境の保全のための措置として挙げた項目については、環境保全の効果に不確実性があるため、事後調査項目として選定します。
	歩行者の安全	来園車両等の走行	×	供用時の歩行者の安全性は、来園経路において歩道等が設置されており、環境の保全のための措置により安全が確保されているため、選定しません。
景観	景観	施設の存在・土地利用の変化	×	施設の存在・土地利用の変化による景観への影響は小さいと予測され、採用した予測方法及び環境保全のための措置は、予測精度に係る知見が十分に蓄積されていると判断でき予測の不確実性は低いことから、事後調査項目として選定しません。
触れ合い活動の場	触れ合い活動の場	施設の存在・土地利用の変化	×	施設の存在・土地利用の変化による触れ合い活動の場への影響は小さいと予測され、採用した予測方法及び環境保全のための措置は、予測精度に係る知見が十分に蓄積されていると判断でき予測の不確実性は低いことから、事後調査項目として選定しません。
		来園車両等の走行	×	来園車両の走行による触れ合い活動の場への影響は小さいと予測され、採用した予測方法及び環境保全のための措置は、予測精度に係る知見が十分に蓄積されていると判断でき予測の不確実性は低いことから、事後調査項目として選定しません。

8.3 事後調査の内容

事後調査の内容は、表 8.3 及び表 8.4 に示すとおりです。

なお、事後調査の対象として選定しなかった環境影響評価項目についても、環境の保全のための措置の実施状況を確認し、選定した項目の事後調査結果とあわせて報告します。

表 8.3 事後調査の内容（工事中）

環境影響評価項目		調査項目	調査位置	調査頻度	調査時期	調査方法
評価項目	細目					
生物多様性	動物	・ 移設により保全措置を講ずる注目すべき動物の生息状況	移設の実施先	1 回 (工事等の状況に応じて適宜調整)	移設対応後の適切な時期 (工事等の状況に応じて適宜調整)	現地調査（任意観察）により、移設した動物種の生息状況を確認します。
生物多様性	植物	・ 移植により保全措置を講ずる注目すべき植物の生育状況	移植の実施先	1 回 (工事等の状況に応じて適宜調整)	移植対応後の適切な時期 (工事等の状況に応じて適宜調整)	現地調査（任意観察）により、移植した植物種の生息状況を確認します。
生物多様性	生態系	・ 表土の移設等により保全措置を講ずるチガヤ群落の生育状況	表土の移設等の実施先	1 回 (工事等の状況に応じて適宜調整)	表土の移設等対応後の適切な時期 (工事等の状況に応じて適宜調整)	現地調査（任意観察）により、チガヤ群落の生育状況を確認します。
地域社会	交通混雑	・ 工事用車両の運行台数	予測を行った主要交差点のうち、下記の 2 交差点と工事ヤード出入口ゲート ・ 立場交差点 ・ 深谷交差点	1 回 (平日 1 日)	予測時点（工事の最盛期）において、工事時間に前後 1 時間を加えた時間帯	交差点では、方向別、車種別、時間帯別の交通量を、カウンターを用いて観測します。工事現場ゲートでは大型・小型別の入・出庫の記録を確認します。

表 8.4 事後調査の内容（供用時）

環境影響評価項目		調査項目	調査位置	調査頻度	調査時期	調査方法
評価項目	細目					
生物多様性	動物	<ul style="list-style-type: none"> 動物の状況 生態系の状況 環境の保全のための措置の実施状況 	対象事業実施区域から約 50m までの範囲を基本とした周辺の連続する環境の範囲（わきみずの森含む）	陸生動物 ○動物相調査 a. 哺乳類：4 季 b. 鳥類：4 季 c. 両生類及び爬虫類：3 季 d. 昆虫類：3 季 ○水生生物：3 季	全体供用開始後 1 年程度経過後	現地踏査等により、動物種の生息状況を確認する方法とします（事前調査と同様の方法とします）。
	生態系					動物の調査で確認した生息状況より類推する方法とします。
水循環	地下水位及び湧水の流量	・地下水の状況	環境影響評価時の調査地点と同じ地点	12 回 (1 回/月)	全体供用後 1 年間	現地調査により地下水の状況及び河川の流量を調査します（事前調査と同様の方法とします）。
	河川の形態、流量	・河川の流量	環境影響評価時の調査地点と同じ地点	2 季 (夏季、冬季)		
地域社会	交通混雑	<ul style="list-style-type: none"> 建物供用後の関連車両台数 	予測を行った 5 交差点 ・立場 ・高砂苑バス停前 ・通信隊東側 ・深谷交番前 ・深谷	1 回 (平日、休日、混雑期)	事業活動が定常な状態になる時期	交差点では、方向別、車種別、時間帯別の交通量を、カウンターを用いて観測します。